

浜松医科大学

第9期事業年度(平成24年度)
2012年4月1日~2013年3月31日

財務レポート2013



浜松医科大学は、

- 1) 優れた医療人を養成すること(教育)
 - 2) 独創的で世界の最先端研究の拠点になること(研究)
 - 3) 最善・最高の医療を提供し地域医療の中核的役割を果たすこと(診療)
 - 4) 産学官連携など、大学が持つ「知」を社会へ提供、還元すること(社会貢献)
- を使命とし、「教育」、「情報・広報」、「総務」、「研究推進」、「経営」、「病院運営」及び「調査・労務」の7つの企画室を設置し、4名の理事及び3名の副学長を中心に中期目標・中期計画に沿って事業の企画立案を行っています。

今後についても「多様な資金の確保」、「経費の効率的な使用・管理経費の抑制」、「有効な資源の配分」を推進し、教育、研究、診療及び社会貢献等の質の向上に取り組む、社会に期待される大学を目指していきます。

ごあいさつ

浜松医科大学長

中村 達



第Ⅱ期中期目標・中期計画期間の3年目にあたり、平成24年度の総括をご報告する時期になりました。毎年6月に経営協議会において前年度の決算報告を諮り、外部委員の方々にもご意見を賜り、ご承認後文部科学省に財務諸表を提出しております。皆様には財務レポートとして、大学及び病院の事業の運営状況及び経営状況を分かりやすくまとめて報告するものです。

平成24年度の事業のうち主なものは、教育関係では附属図書館の整備、学生のグループ学習用に物理実験室を改修、3、4年次生のPBLチュートリアル教育の充実等があげられます。また、これまで長きにわたり整備が遅れていた情報基盤センターの組織及び体制を整備しました。キャンパス情報システム、事務用電子計算機システム、図書館情報システムの3つを一元化してキャンパス情報システムとし全学的な統合認証基盤を構築しました。これは本学として自慢できる最も先進的な取り組みであります。研究者は図書館に行かずとも自分の部屋から研究論文を検索できるようになりました。

研究面では、先進的研究を行い、実績を積んでいる研究者には研究室を提供し、新しい講座並びにセンター等の設置に際しては建物の改修と有効利用を行ってきました。皆様のおかげで競争的資金の獲得は他大学に比べ順調であり、それが大学運営に大きく貢献していることは日頃説明しているところです。

診療の領域では、病棟の再整備が平成21年度に終わり、外来棟の再整備は平成25年7月ですべて終了します。関係者の皆様には大変ご苦勞をおかけしました。患者さんばかりでなく、職員のアメニティも改善されたものと思います。

平成24、25年度の職員の給与削減については、多くの皆様に忍耐をお願いしているところですが、大学病院としては平成26年度以降も続けることはできないと考えています。

何事も一丸となって取り組めば浜松医科大学は益々伸びていく可能性を十分持っていると考えております。これからもご協力をよろしくお願い申し上げます。

貸借対照表

要約

決算日における資産、負債、純資産を表し、財政状態を明らかにしています。借入金等の負債と国からの出資等の純資産による土地、建物等の資産をもとに教育、研究、診療の業務活動を行っています。

(単位：百万円)

資産の部	24年度	23年度	増減(24-23)
土地	6,489	6,489	—
建物	22,216	21,191	1,025
構築物	266	286	▲ 20
工具器具備品	6,277	4,891	1,386
図書	604	674	▲ 70
その他有形固定資産	9	10	▲ 1
建設仮勘定	—	77	▲ 77
無形固定資産等	135	145	▲ 10
固定資産 計	36,000	33,766	2,234
現金及び預金	7,821	6,504	1,317
未収入金 ^{※1}	2,883	2,850	33
有価証券 ^{※2}	600	400	200
たな卸資産	240	174	66
その他	463	436	27
流動資産 計	12,008	10,366	1,642
資産合計	48,008	44,133	3,875

負債の部	24年度	23年度	増減(24-23)
資産見返負債 ^{※3}	3,081	3,156	▲ 75
借入金	20,342	18,632	1,710
リース債務	2,191	827	1,364
運営費交付金債務	552	204	348
寄附金債務	1,928	1,738	190
前受受託研究費等	286	334	▲ 48
未払金 ^{※4}	4,816	3,774	1,042
預り金・その他	535	643	▲ 108
負債合計	33,734	29,312	4,422
純資産の部	24年度	23年度	増減(24-23)
資本金	5,317	5,317	—
資本剰余金	4,732	5,053	▲ 321
利益剰余金	4,224	4,450	▲ 226
(うち当期未処分利益)	▲ 223	▲ 72	▲ 151
純資産合計	14,274	14,821	▲ 547
負債・純資産合計	48,008	44,133	3,875

☆貸借対照表、損益計算書の端数処理については、百万円未満を切捨てています。合計についても円単位で計算したものを端数処理して、百万円未満を切捨てています。

【資産】

平成24年度末現在の資産合計は前年度比3,875百万円(9%)増の48,008百万円となっています。

主な増加要因としては、建物が医学部附属病院外来棟改修工事の稼働部分等により1,025百万円(5%)増の22,216百万円となったこと、工具器具備品が教育研究用機器の更新、整備及び病院再整備事業の設備整備等に伴い1,386百万円(28%)増の6,277百万円となったこと、現金及び預金が長期借入金の増加等に伴い1,317百万円(20%)増の7,821百万円となったことが挙げられます。

また、主な減少要因としては、図書が除却により70百万円(10%)減の604百万円となったことが挙げられます。

【負債】

平成24年度末現在の負債合計は前年度比4,422百万円(15%)増の33,734百万円となっています。

主な増加要因としては、長期借入金が2,281百万円(15%)増の17,219百万円となったこと、未払金が医学部附属病院外来棟改修工事の出来高払分の増加等に伴い1,042百万円(28%)増の4,816百万円となったこと、リース債務が対象機器の更新等により1,364百万円(165%)増の2,191百万円となったことが挙げられます。

また、主な減少要因としては、国立大学財務・経営センター債務負担金が償還等により570百万円(15%)減の3,123百万円となったことが挙げられます。

【純資産】

平成24年度末現在の純資産合計は前年度比547百万円(4%)減の14,274百万円となっています。

主な要因としては、資本剰余金が損益外減価償却累計額の増加等に伴い321百万円(6%)減の4,732百万円となったこと、利益剰余金が当期末処理損失223百万円を計上したこと等により226百万円(5%)減の4,224百万円となったことが挙げられます。

- (注) ※1 未収入金 主に未収附属病院収入が計上されています。うち2,630百万円が社会保険診療報酬支払基金、国民健康保険団体連合会への診療報酬請求等に当たり、5月末までには入金されるものです。
- ※2 有価証券 有価証券はすべて譲渡性預金です。資金管理委員会等の決定により短期(1年以内)の定期預金として複数の金融機関の利率を比較し運用しています。このうち譲渡性のもは、有価証券として区分することとなっています。
- ※3 資産見返負債 資産見返負債とは、運営費交付金、寄附金、補助金等を財源として取得した資産については、取得時に資産と同額の「資産見返負債(各々の財源の名称)」を負債に計上し、その資産の減価償却相当額と同額を取り崩し収益計上することで、収支均衡に作用する国立大学法人等の特有の勘定科目です。
- ※4 未払金 業者等への3月末時点での支払未了額で5月末までには全額支払されるものです。

損益計算書

要約

年度内に実施した事業により発生した費用、収益を表し、一年間の運営状況を明らかにしています。
教育、研究、診療の業務・目的別に費用を示し、運営費交付金や附属病院等の財源別に収益を示しています。

(単位：百万円)

費用の部	24年度	23年度	増減(24-23)
教育経費	291	311	▲ 20
研究経費	1,229	1,129	100
診療経費	11,533	10,920	613
教育研究支援経費	168	135	33
受託研究費	615	822	▲ 207
受託事業費	179	126	53
人件費	9,922	10,162	▲ 240
一般管理費	408	429	▲ 21
財務費用	341	333	8
経常費用合計	24,690	24,370	320
臨時損失			
固定資産除却損	531	343	188
減損損失	0	713	▲ 713
その他	28	26	2
費用合計	25,250	25,454	▲ 204
当期総損失(利益)	▲ 223	▲ 72	▲ 151

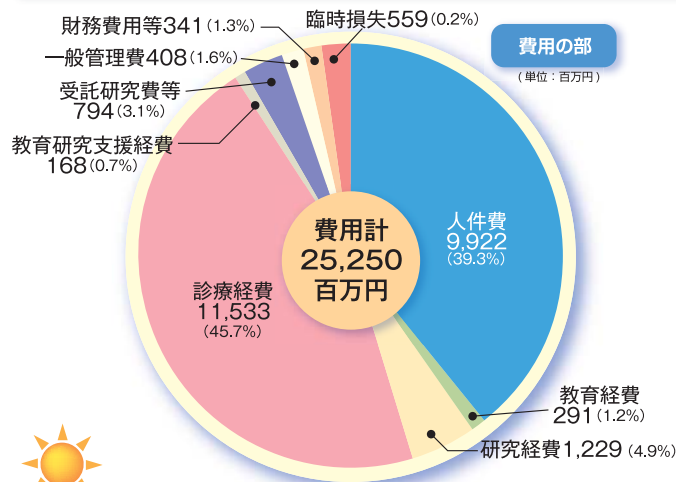
収益の部	24年度	23年度	増減(24-23)
運営費交付金収益	4,787	5,594	▲ 807
授業料等収益	699	698	1
附属病院収益	17,094	16,356	738
受託研究収益	626	803	▲ 177
受託事業収益	182	125	57
寄附金収益	461	409	52
間接経費収入	136	137	▲ 1
施設費収益	9	3	6
補助金収益	132	151	▲ 19
資産見返負債戻入	723	597	126
財務収益	1	1	—
その他の収入	163	157	6
経常収益合計	25,017	25,036	▲ 19
臨時利益	6	336	▲ 330
収益合計	25,024	25,373	▲ 349
目的積立金等取崩額	2	9	▲ 7

【経常費用】

平成24年度の経常費用は前年度比320百万円(1%)増の24,690百万円となっています。

主な増加要因としては、診療経費が患者数及び手術件数の増加に伴う医薬品費及び診療材料の調達増により613百万円(6%)増の11,533百万円となったことが挙げられます。

また、減少要因としては、人件費が運営費交付金の給与相当額削減等により240百万円(2%)減の9,922百万円となったことが挙げられます。

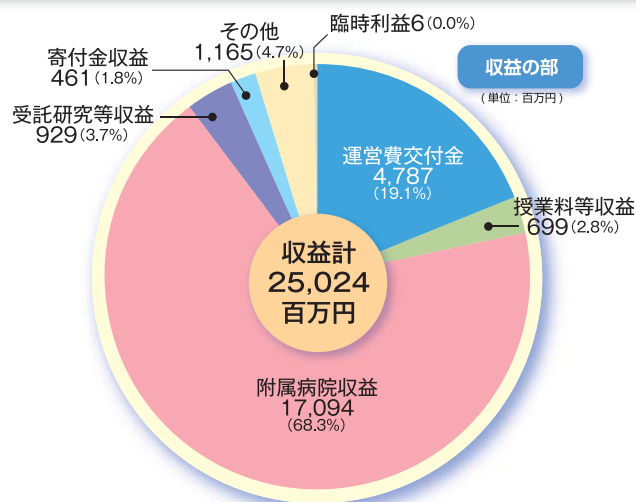


【経常収益】

平成24年度の経常収益は前年度比19百万円(0.1%)減の25,017百万円となっています。

主な増加要因としては、附属病院収益が手術件数の増加及び入院診療単価の向上等により738百万円(5%)増の17,094百万円となったことが挙げられます。

また、主な減少要因としては、運営費交付金収益が給与相当額削減等により807百万円(14%)減の4,787百万円となったこと、受託研究等収益が前年度に複数年契約分の期間終了が多かったことに伴い177百万円(22%)減の626百万円となったことが挙げられます。



平成24年度は損失 一当期総損失の主な要因一

- 外来棟改修工事は、借入金、耐震に係る補助金(静岡県・厚生労働省)、病院収入を財源として実施しています。
- 通常の改修工事では、稼働部分を建物等の固定資産へ、撤去分を修繕費として経常費用に計上しています。
- 本学の場合、旧病棟の6階から10階までを取り壊し、5階以下を外来棟として改修しているため、撤去となる部分が比較的多くなっています。
- 平成24年度にて6階以上を実際に撤去し、その費用は約5億円でした。
- 通常は修繕費(経常費用)ですが、臨時的な他のものと一緒に固定資産除却損として5億3千万円計上しています。
- 撤去分の財源は借入金となっているため、相対する収益見合いがありませんので当期総損失の大きな要因となっています。

平成24年度 主な事業

運営費交付金等による国の支援のほか、職員の努力により外部資金及び病院収入等が増加した中で、効率的な運用を図ることにより下記のような事業を実施することができました。

教育に関する事業

- 1 PBL双方向ビジュアルコミュニケーションシステムを整備し、少人数の教員でより有効なPBL教育が行えるようになりました。
- 2 物理実験室の機能を基礎医学実習室と兼用することにより、確保したスペースをグループ学習等に使用できる講義室に改修して環境を整備し、併せて講義室の不足を解消しました。
- 3 附属図書館では1階にラーニングcommonsを配置し、館内全域に無線LANを敷設、AV視聴コーナーの移設及び整備を行い学習環境の向上を図りました。
- 4 米国ハワイ大学医学部との学部間協定及びドイツのデュッセルドルフ大学との学術協定を締結しました。

研究に関する事業

- 1 2カ所に分かれていた情報関連部署を1カ所に統合し、情報基盤センターとして整備することにより機能性が向上し、システムの更新により、学内の電子メール及び無線ネットワークの環境が整備されました。
- 2 共同利用施設である実験実習機器センターの老朽化した研究機器のうち、利用頻度の高い質量分析計を更新し、利便性を高めています。
- 3 RI実験室の集約化により生じたスペース及び不要となった機械室を改修することにより、新設した臨床腫瘍学講座、イノベーション光医学講座、地域周産期医療学及び解剖学細胞生物学分野の実験・研究室とし、新しい組織の活動の場を確保しました。
- 4 大型の外部資金獲得のためのパイロットスタディとなる研究について学内公募を行い、支援を行いました。
- 5 大学全体で喫緊に必要とする研究機器の導入及び基礎・臨床の複数の講座が参加する新しい共同研究への支援を戦略的に決定し遂行するため、戦略的研究機器導入事業、戦略的共同研究支援事業を新たに実施しています。

診療に関する事業

- 1 外来棟改修に伴い、救急部CT撮影装置、単純X線撮影装置を自己収入等で増設しました。
- 2 急性期看護補助加算(25対1)、小児入院医療管理料の上位を新たに取得した他、保育士の雇用によりプレイルーム加算も併せて取得し、増収を図ることができました。
- 3 精神科病棟の稼働状況が高いため、摂食障害の患者を外来でフォローアップできるよう、精神科デイ・ケア療法を開始し、在院日数の改善と共に増収を図ることができました。
- 4 出産時に麻酔をかけること等、無痛分娩の増により増収を図ることができました。
- 5 褥瘡ハイリスク患者のケアを向上させるため、認定看護資格を取得している看護師を専従配置し、増収を図ることができました。
- 6 ベッドコントロール担当看護師を配置し、病棟間調整を行ったことでスムーズな入院システムを確立し、病床稼働率向上を図ることができました。



1 PBL 双方向ビジュアルコミュニケーション



3 図書館



1 情報基盤センター



2 実験実習機器センター 質量分析計



1 救急部

— 平成25年度の主な事業計画 —

- 1.臨床講義棟改修【教育】
- 2.図書館整備(Ⅱ期)【教育】
- 3.研究機器整備「DNA塩基配列システム」【研究】
- 4.基礎臨床研究棟等セキュリティ対策【研究】
- 5.病院再整備「外来棟改修(最終年)」【診療】
- 6.診療機器整備「MRI、CT装置更新等」【診療】
- 7.災害対策事業「井水給水設備整備」、「蓄電池の整備」、「放射線除染設備」

平成24年度の財務レポートをお送りいたします。

大学及び附属病院の事業計画、経営状態を透明度の高いかたちで示しております。平成24年は第Ⅱ期中期目標・計画の3年目ということで、第Ⅱ期の1～2年目に成し遂げた事業をさらに拡大・発展させるべく、着実に計画を実施しております。特に、教育、研究、診療に加えて、社会貢献についても力を入れております。

あとかき



浜松医科大学理事
(財務・病院担当)・副学長

瀧川 雅浩

平成24年度の附属病院収益は、平成22年度、平成23年度に引き続き、大幅に伸びております。その理由として、診療報酬請求を念頭に診療実績の分析、取得可能な加算の洗い出しと対応策の検討を重ね、実施できたことが大きく、病院スタッフはもとより大学スタッフ等の多方面からのご支援、ご協力の賜物と思っております。

附属病院では、患者さんへ最良の医療の提供をモットーに、医療従事者が充足感を得られるような、働きやすい職場を目指しております。病院スタッフから様々なご意見をいただき、病院業務について硬軟両面で改善を図っていきたく思います。地域医療支援体制の充実及び拡充は広く求められているところですが、これに応えるべく医療福祉支援センターへの支援を強化しております。また、外来棟改修に伴って、新たな救急医療体制が構築され、地域への貢献度も高くなっております。県からの寄附講座である地域周産期医療学講座もスタッフが充実してまいり、周産期医療に携わる医師の育成も着実に進んでおります。

平成25年度は外来棟改修がいよいよ終了し、これに伴い診療体制が一層充実いたします。改修中は、患者さん、職員の皆さんには、多方面でご迷惑をおかけいたしました。今後は新しい外来棟での診察ということになります。これまで以上のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

※本レポートに関連する資料は、浜松医科大学ホームページにて開示しています。

■中期目標・中期計画、年度計画 http://www.hama-med.ac.jp/uni_introduction_chukimokuhyo.html

■財務諸表、事業報告書等 http://www.hama-med.ac.jp/uni_introduction_report_hijyouhou.html



国立大学法人浜松医科大学
財務レポート2013(平成24年度)

発行:国立大学法人浜松医科大学会計課

〒431-3192 静岡県浜松市東区半田山1丁目20番1号

TEL.053-435-2111(代)

<http://www.hama-med.ac.jp>